

「立山曼荼羅」と立山信仰の世界

立山博物館学芸員が出張解説を行います

「立山曼荼羅」は、立山の特徴的な資料の一つで、現在、53点を確認しています。その多くは、江戸時代に制作されたと考えられるもので、「立山御絵伝」「立山絵図」などと呼ばれていました。そこで、1月24日(水)から高志の国文学館常設展示室で展示する「立山曼荼羅」宝泉坊本（個人蔵）を中心に、立山曼荼羅の魅力について立山博物館の学芸員がお話します。



「立山曼荼羅」宝泉坊本（個人蔵）

令和6年 2月4日【日】

講師

細木 ひとみ

立山博物館 学芸員

平成28年4月より立山博物館に勤務。
専門は日本民俗学。
立山曼荼羅の調査・研究にも携わり、
立山博物館開館30周年記念として
『新綜覧 立山曼荼羅』を刊行。高志
の国文学館常設展示室内の立山曼荼羅
の展示替えにも従事している。

時間 14:00～15:30 (13:30受付開始)

定員 当日先着100名

※参加無料、事前申込不要

会場 高志の国文学館 研修室101

4館連携
事業

本イベントは、富山県立の美術館・博物館4館（高志の国文学館、立山博物館、富山県美術館、富山県水墨美術館）が連携する4館連携事業の一環として実施するものです。